

心地よい風が吹くコタキナバル

日本語ボランティアのきっかけ

インターネットで WSC (ワールドステイクラブ) が、マレーシアとアメリカでの日本語のボランティアを募集しているのを見て、コタキナバルの JCTIC 日本語学校にお世話になりました。

私は 35 歳の頃、仕事でラブアン島 (マレーシア政府直轄地) に 5 ヶ月間滞在したことがあって、KK (コタキナバル) には何度か行き来しました。また、5 年前、昔の地を見に行き、更に KK で現地募集のツアーに参加しましたので、町や周囲の状況をぼんやり知っていました。それもあって KK での日本語ボランティアに応募しました。しかし、仕事の上で外国人に教育した経験はありましたが、日本語の教育は未経験です。年齢も 70 才に差し掛かり、体力も下降中です。でも、日本語に関しはネイティブですから、スタッフの方の指導や、「みんなの日本語」の副教材の指導法に従えば何とかできるのではと思います、2015 年 2 月 16 日～4 月 20 まで行かせて貰いました。

熱心な生徒と充実した授業



JCTICの生徒たちと

担当したのが幸いビギナークラスの 2 クラスで、月水金が 19:30～21:00 と火木が 17:50～19:20 のそれぞれ 1 時間半の授業です。前任者の荒井さん (女性) から詳しい引き継ぎと、指導法を教えて頂き、また、長期滞在されておられる佐藤さん (男性) からアドバイスを受けました。スタート時は指導のフローチャートの作成に時間がかかり、また、生徒さんの前では緊張気味でした。

彼らは日本語に対する強い志があります。日本の大学で学ぶ、日本で働きたい。マレーシアにある日本の企業で働きたい。現在日本の関係会社で働いているので更に日本語の読み書きを覚えたい。等などの目的を持っています。また、いろいろな観光地で四季のある日本を体感したい希望もあり、特に北海道が人気のようです。いろいろ質問されたり、人気グループの「嵐」の大野さん好きとか、アニメのキャラクターが出てきたり、笑いのある楽しい授業を感じるようになりました。

KK 暮らしの楽しみ

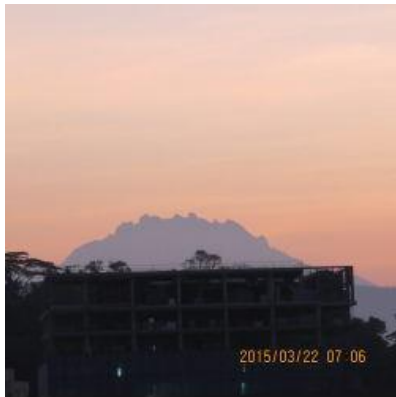
生活面では、宿舎が 10 階 (日本だと 11 階) にあり、3 LDK の広い部屋で、2 人の時、1 人の時、最後は 4 人の時もありましたが、快適な生活が送れました。日中は暑いのですが、窓を開けておくと心地よい風が吹き抜けるため、リビングルームではクーラを入れたことはありませんでした。ベツルームは寝る前にエアコンを入れ、寝るときは切っていました。朝方は 23℃ ぐらいまで下がります。私の食事は、朝はパンと牛乳と果物です。特に果物は沢山ありますが、パイナップル、マンゴー、モンキーバナナ、メロン等をよく食べました。3 月の終わり近くに「北海道パン」という日本人の作るパン屋がオープンしてからは、KK のパンとは比較にならな



宿舎のマリナ・コート

いほど美味しいので、値段が2～3倍しましたが良く食べました。昼夜は外食が中心で、現地のラクサ（香辛料の効いた麺料理）や中華料理が主でした。時には宿舎のオーナーの氏原さん夫妻及び青島さんにKKで美味しいと言われるレストランへ連れて行って頂き、違ったKKの街を体感すると同時に、気分転換になりました。また、新しくオープンした日本レストランや、サンセットを見ながらベイサイド・レストランでのビールは格別でした。

心地好い風吹くコタキナバル



日の出前のキナバル山

体力維持のため、朝はサンライズの6時から約1時間前後の涼しいうちにウォーキングをしていました。宿舎からの朝焼けのキナバル山は、日によって表情が異なるので楽しみです。北コースと南コースが自分なりに決めて、北は、市街地を縦断して貿易港、観光船の発着場、青果市場、魚市場を見ながら、時には果物を購入することもあります。また、ベンチで涼を取っている60代の地元の方と挨拶を交わす楽しみもありました。南コースは、新しく商業地を建設している **KK Times Square** の横を通り、**Sutera Harbour Resort** 入口からゴルフ・コースを見ながらホテルまでのコース。南国の花々や椰子の木、ソテツやシュロの木の美しい草木が見られて楽しく、時には小川でワニ(Crocodile)

やイクアナ、変わった野鳥に出会うこともありました。

私は、土曜日曜はクラスがありませんので、近くのモールへ買い物、宿舎のオーナーが所蔵してある本が置いてあるので、読書を楽しみました。周辺の観光地はすでに訪れていたので、今回は動物園や先住民のカルチャービレッジ、を訪れました。動物園でオラウータンやアジア象、ニシキヘビ(Python)が印象に残りましたが、思わぬハプニングもありました。約束した迎えの車が来ず、動物園のスタッフに相談したら、園長が出て来て動物園のガードマンにバスの停留場まで送らせてあげるからと言ってくれました。暑い中で2時間待つて来ないので途方暮れていたところをマレーシア人の優しさに助けられました。

あっという間の2か月でしたが、自分にとってとても有意義な経験をさせて頂きました。街はトロピカルな花や草木でとても美しい。ただ今後のマレーシア人の課題は、港や小川、公園でプラスチックやペットボトルを投げ捨てなければ、非常に美しいKKになると思います。アジアの若者が日本に関心を持っていることは、将来日本にとって有意義だと感じました。お世辞とはいえ、生徒や関係者からまた来て下さいと言われましたので、体力や私の取り巻く環境を見て、お役に立ちたいと思っています。ボランティアの機会を与えて頂き有り難うございました。

小林 庸（神奈川県・海老名市）